

進路探究学習としての学問研究会の取り組み

進路部

はじめに

本校の進路探究学習の取り組みの中でも重要な位置を占めるようになった学問研究会であるが、単位制移行後も内容、講師の人選等改善を重ねながら、充実を図ってきたところである。

ここでは、今年度の取り組みを中心にその実践を報告するとともに、今後さらに発展させていくための基礎資料となればと思う。

1. 平成22年度学問研究会実施要領

- (1) 目的
- ・大学の講義の雰囲気所高校の教室で味わい、「大学で何を学ぶのか」といったガイダンス面の充実と、「学問」に対する認識を深めさせる。
 - ・高大連携の事業のひとつとして、これまでの実践を生かし、生徒の進路選択に資する機会とする。

(2) 日時 平成22年11月9日(火) 12:00~15:50

(3) 対象生徒 本校1、2年生全員

(4) 当日のスケジュール

① 受付		11:30~12:00
② 学校長挨拶	大会議室	12:00~12:05
③ 進路部長諸連絡		12:05~12:10
④ 昼食 / 使用機材設置・調整		12:10~12:50
⑤ 各講師の先生方移動		13:00~13:10
1 講座目		13:10~14:10
休憩時間		14:10~14:30
2 講座目		14:30~15:30
⑥ 講師の先生方アンケート		15:35~15:50
⑦ 終了挨拶 解散		16:00

※当日1、2年次は1~4授業、5~7時間目カット 3年次は1~6時間目の授業

※生徒アンケート及び講義ノート作成は翌日の10日(水) LHRで行う

(5) 実施手順

- ①本校生徒の進路志望状況並びに近年の進路実績を踏まえて、道内外の主要な大学に講師派遣を依頼する。その際、派遣に伴う費用等については大学からの支援を要請する。
- ②講義については、同一内容の60分間講義を2回実施していただき、開講講座の中から生徒は各自の進路および興味・関心、所属ゼミなどを考慮して選択受講する。
- ③生徒への受講希望調査により、第1から第4希望までを集約し、一人2講座の受講講座を決定する。
- ④11月上旬配布予定の「講義ノート」により、事前準備(学習)をさせる。
- ⑤受講後、課題提出用ノート(レポート)を作成し提出。(各年次進路部集約→進路部係取りまとめ)

2. 学問研究会の準備日程について (省略)

3. 事前、当日の業務内容および分担 (省略)

4. 生徒への指導事項

- 5日 (金) 朝読書・SHRで ①『講義ノート』の配布→自分の講義の箇所を読ませる。
②8日の読書、9、10日にも使用することを連絡。
- 8日 (月) 朝読書・SHRで ①5日に引き続き『講義ノート』を読書 (自分の講座を終了した生徒は他講座も読む) ②9日は正装であることの確認。
- 9日朝のSHRで
①『講義ノート』の利用法について説明・・・講義では《講義用ノート》を利用してメモなどをとる。
⇒その後10日 (水) のLHRで、《提出用ノート》を作成する。
②意義の確認と諸注意：講義室を確認し、服装を整え(正装)、余裕をもって着席。受講態度。
- 10日のLHRで
①「生徒用アンケート」の記入：その場で回収。回収後、文化委員に集計させ、1年川口先生、2年小川先生まで提出させる。(集計提出は12日まで)
②《提出用ノート》を作成し、切り離して担任に提出。[最終締切は12日(金)]。担任→小川先生へ提出。

5. 今年度の実施状況および事後アンケートの結果

今年度の学問研究会は後述資料にもあるとおり、18大学より24名の講師を招いて実施した。今年のははこだて未来大学が新たに参加したほか、近年関心の高い環境科学(北海道大学)や文化人類学(弘前大学)といった初めての分野の講座が開設できたところが特徴的と言える。

アンケートの結果にもある通り、生徒の評価は非常に高く、講義内容の関心度、進路意識の向上、など当初の目標に向け、成果はあったものと考えられる。また、大学の先生方からも生徒の参加態度、運営方法などに評価を頂き、本校を代表する行事となりつつあると感じた。

【生徒用アンケートの結果】

質問1、講義内容は興味・関心のあるものでしたか?

	[1 講義目]	[2 講義目]
(1) はい	529名(88.0%)	489名(81.3%)
(2) いいえ	15名(2.5%)	34名(5.7%)
(3) どちらでもない	51名(8.5%)	76名(12.6%)

質問2、講義内容は進学する上で参考になりましたか?

	[1 講義目]	[2 講義目]
(1) はい	418名(70.0%)	389名(64.7%)
(2) いいえ	50名(8.3%)	58名(9.7%)
(3) どちらでもない	128名(21.3%)	152名(25.3%)

質問3、このイベントで、進路に対する意識は高まりましたか?

(1) はい	444名(73.9%)
(2) いいえ	27名(4.5%)
(3) 変わらない	130名(21.6%)

質問4、このイベントで、大学に入学し、研究したいと思いましたか?

(1) はい	434名(72.2%)
--------	-------------

(2) いいえ 30名(5.0%)

(3) どちらでもない 137名(22.8%)

質問5、このようなイベントの必要性を感じますか?

(1) はい 511名(85.0%)

(2) いいえ 8名(1.3%)

(3) あってもなくてもよい 82名(13.6%)

質問6、このイベントに関する意見・要望

- ・専門的な奥の深い講義を受けられていい機会になった。
- ・今まで知ることがなかった学問について知ることができた。視野が広がった。
- ・1年生からこのようなイベントをすることは将来の見通しに役立つと思う。
- ・大学の授業の雰囲気がよくわかった。 ・自分が学んでみたい講座が高校生の内に学べた。
- ・自分の興味関心や進路決定に役立つよい機会だと思った。
- ・大学のことについて知れた。大学への興味が高まった。
- ・実際に大学の講義を聴いている気分になった。進路への考えがよりふくらんだ。
- ・大学で研究してみたいという意欲が生まれた。 ・進路を決める前に開いてほしい。
- ・農学・生物学の講座で実際に実験もしてみたかった。
- ・講義選択の前に講義ノート(講義内容がわかるもの)がもらえると嬉しい。
- ・実演を交えた講義はとてもおもしろく参考になった。 ・大学を身近に感じることができた。
- ・高校では聞けないようなお話を聞けてとてもいい機会になった。
- ・自分がなりたいと思っている職業を見直すよい機会になった。
- ・進路には関係ない講座を選んだがこれからの生活に役立つ有意義なものだった。
- ・将来について考えられるよい機会なので続けてほしい。
- ・入門編というよりも実際の授業のようなことをやってほしかった。
- ・もう少し早い時期にやってほしい。 ・芸術系の講義を増やしてほしい。
- ・観光学がなくなったのが残念。 ・もっと講義の種類を増やしてほしい。

【講師・教員用アンケートの結果】

質問1. 講義に参加して生徒の反応はいかがだったでしょうか。

	講師	本校教員
1. とても良かった	11名	4名
2. 良かった	8名	5名
3. 普通	3名	3名
4. あまり良くなかった	0名	0名
5. 良くなかった	0名	1名

回答数 (22名) (13名)

質問2. 講義の時間は、適切だったでしょうか。

	講師	本校教員
1. 長い	0名	1名
2. やや長い	0名	0名
3. ちょうど良い	15名	10名
4. やや短い	6名	2名
5. 短い	1名	0名

質問3. 事前準備、講義ノート、当日の運営等についての意見・要望

●講師の先生方の意見・要望

- ・大変良い。よく組織だって運営されています。 ・生徒さんの対応がとても丁寧でした。
- ・回を重ねるごとに細かな改善がされ、運営は問題ありません。
- ・しっかりと事前準備をしていただきました。もう少し人数が少ないと（25～30人）だとやりやすかったと思います。
- ・講義ノートがあって大変助かりました。他の準備も万全でした。
- ・とても熱心な取り組みが印象に残りました。担当の生徒さんも一生懸命で良いものだったと思います。
- ・高校の先生方や生徒さんがこの研究会を大切にされていることが伝わってきました。それにこちらが応えることができたかは自信ありませんが……。
- ・分野によっては演習形式にした方がもっと興味を持ってもらえる授業にできるように思えます。
- ・可能であれば事前に生徒さんから質問事項をまとめておいていただけると良いと思います。
- ・高校在学中に大学の空気を感じさせる取り組みは大いに評価できます。運営上難しいと思いますが90分の大学時間での体験をさせてみたい。
- ・高大連携のとても良い制度だと思いました。高校生との対話は刺激的で新鮮なものでした。大学生に研究発表させる機会を設けても面白い試みだと思います。
- ・素晴らしい企画だと思います。私たちにとっても貴重な体験です。高大連携がいつも言われていますが、このような企画が本当の「連携」だと思います。
- ・御校の本事業に対する熱意を強く感じました。来年以降も機会を頂ければ幸いです。

●本校の先生方の意見・要望

- ・授業4時限のあと開始13:10では教員の余裕がない。4時間目に授業がある場合は黒板の清掃、担当教室での準備、打ち合わせ、生徒の指導で昼食をとる時間がなかった。
- ・講義ノートを見て生徒が選択できたり、参考図書を予め読めたりすると意欲ある生徒にはとても良い。
- ・前日の機材説明会はありがたかった。皆年をとってきたので仲良く助け合ってやっていきましょう。機材の設営も放送局やメディア局の生徒に運営させてみてはどうか検討して下さい。
- ・生徒の反応をみると、本校生徒は入門編よりも実際に研究されている先端的な内容の方がくらいつきが良いのではと感じました。
- ・文学の講座があっても良いと思う。
- ・生徒は一生懸命聞いていたし、聞こうという姿勢がみられて良かったと思います。ひとつだけ気になることは「正装」で、こちらから注意しないとリボンなど直さない生徒が多いことです。普段からTPOに応じた行動がとれるように教えなければと思いました。
- ・毎年聴講を楽しみにしています。今年も大学の先生方の内容もさることながら、講義方法等大変刺激になり良かったです。

おわりに （省略）

（文責 佐藤 直人）